



図2. 交尾しているキクガシラコウモリ

採食で得たエネルギーの多くを冬眠に必要な脂肪の蓄積に振り向けている(船越, 2000)。今回の交尾を確認した2個体以外のキクガシラコウモリのほとんどは低体温状態にあり、この冬期歩道内でroostしていた本種のほとんどは冬眠にむけてエネルギーを貯える時期に入っていたものと考えられる。これらのことより、今回確認した交尾は交尾期の終期のものと考えられる。

参考文献

船越公威. 1991. コウモリの生活様式と適応. 現代の哺乳類学. 87-118. 朝倉書店, 東京



図3. 低体温を維持しているキクガシラコウモリ

船越公威. 2000. コウモリ. 冬眠する哺乳類. 103-142. 東京大学出版会, 東京
 前田喜四雄. 1994. コウモリ目. 日本の哺乳類. 37-70. 東海大学出版会, 東京
 毛利孝之・内田照章. 1991. 繁殖生理. 現代の哺乳類学. 65-86. 朝倉書店, 東京
 村井仁志・穴田哲. 1993. 富山県内の人工洞における翼手類について. 富山の生物. 32: 24-29
 内田照章. 1985. こうもりの不思議. pp146. 球磨村森林組合, 熊本
 (2001年12月28日受理)

五色ヶ原でヒメウメバチソウを見つける

増田恭次郎

富山大学理学部 〒930-8555 富山市五福3190

A Record of *Parmassia alpicola* Makino at Gosikigahara in Toyama

Kyojiro Masuda

Department of Biology, Faculty of Science, Toyama University, Gofuku 3190, Toyama 930-8555, Japan

私は、7月下旬から8月上旬の期間に今日まで25年間毎年「立山の花めぐり」という企画で五色ヶ原を訪れている。1998年には7月31日に訪れているが、この年は雪解けが早く一ヶ月も季節が進んでいる感じであって、いつものお花畑にはほとんど花が見られなかった。そんな青葉が茂る中に白い小さな花を見つけた。今までに見たことのない花であった。早速写真に納めたがいにくカメラの調子が悪く、1本全部露出オーバーでぼんやりとしか写っていなかったが、それでも何とかヒメウメバチソウであろうと見当がついた。

1999年には7月30日に訪れている。お花畑は花盛りであったが、肝心の植物には花がなく葉の出た株を確認するにとどまった。

2000年には7月28日に訪れている。この年は残雪が多く、全体に花期が遅れていて、肝心の植物の確認はできなかった。そこで再度8月18日に訪れたのであるが、お花畑は正に真っ盛り、肝心の植物の確認だけに終わった。

そして今年(2001年)は8月4日に訪れた。積雪量は少なかったか、雪解けが早かったか、残雪

は少なくお花畑の開花はかなり進んでいたが、やはり株の確認に終わった。そこで昨年よりも遅い8月24日に再度訪れた。多くの目立った花が終わった中で、目的の花が真っ盛りであった。観察と写真によってやっと3年がかりでヒメウメバチソウであることが確認できた。五色ヶ原でのヒメウメバチソウの分布確認は初めてでないかと思う。以上。

(2001年12月28日受理)



図1. 観察地